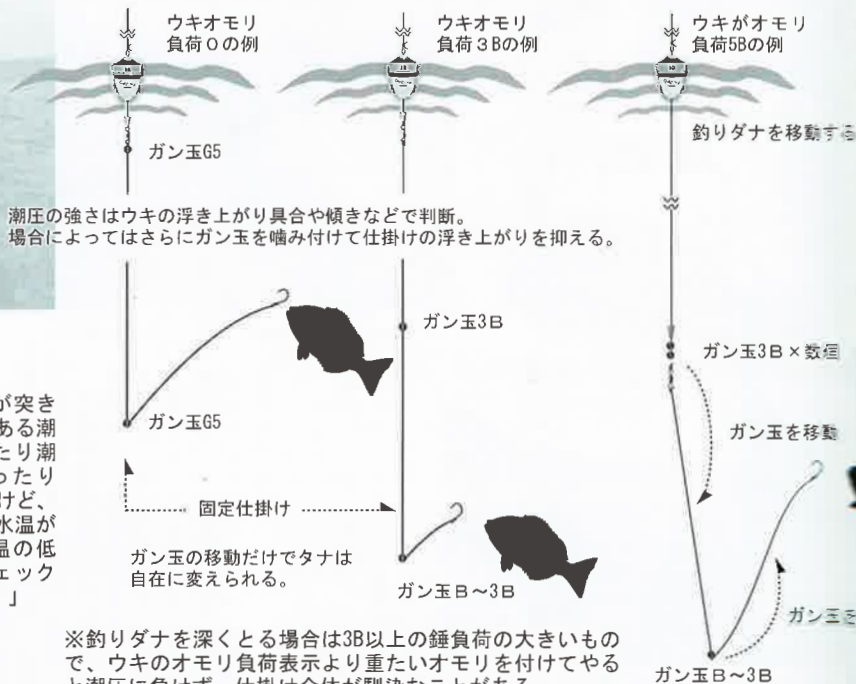




▲ 甌島にて

「こんな丸い潮の塊が突き上げて来る。勢いのある潮が底根にぶつかったり潮どうしがぶつかったりして発生するんだけど、潮が擦れ合って水温が高くなる。水温の低いときは要チェックポイントだね!」

湧き潮が発生する海域では、例えば水深が20数メートル以上あっても、極端な例には1ヒロのタナで喰ってくることもある。海面近くから仕掛けを少しずつ落とし、ツケエサの有無で判断しながらクロの食いタナを探っていく釣り方が賢明策。



※釣りタナを深くとる場合は3B以上の錘負荷の大きいもので、ウキのオモリ負荷表示より重たいオモリを付けてやると潮圧に負けず、仕掛け全体が馴染むことがある。

『ヨレ潮』でクロを釣る

イメージ的には沈み根に仕掛けを入れ込むようなイメージで釣れば良い。
またこのような海域は海水温が冷たいとき、潮どうしが擦れあったりするところだから流れがないところより幾分か水温が高くなっている。クロの動きも

活発で、他のところより随分上の方でエサを食ってくるパターンもよくあること。
とにかくここでは潮下(しも)でしっかりマキエを撒きこみながらやると、ビックリするぐらい釣り場が化けたりするから楽しい潮回りの一つだね。

編集部 時間も遅くなりましたけどこの時点でPM11時半過ぎ、『ヨレ潮』って呼ばれてるところがありますね。ここでの攻略を最後にお願いします。

野間氏 クロ釣りポイントの一番核心というか、最高のポイントを出してきてたね! 今まで色んなところの潮回りを話してきたけど、このヨレのところが一番クロが集まって来るところ。

このヨレ潮も風によるヨレと潮によるヨレとがあるけど、どっちでも最高のポイントだね。

ここでの釣りはハリスに一切ガン玉を付けない、例えばタナが2ヒロだろうと4ヒロだろうとね。自然に仕掛けを入れ込むような釣り、潮が当たってくる流れだろが掃(は)けていく流れだろがガン玉は打たないほうがいい。ここを例えて言うなら、

最後に

ここまで野間氏に潮によるクロ攻略法を聞いてきましたが、全ての表現を書き記すことができたかと思えます。しかし、何か一つでも参考になれば幸いです。

編集部

クロ生態雑学

長崎県のある地域でのクロ飼付け漁の話。その飼付けにはフナムシをエサに数日間撒き続け、船からクロを釣り込んでいくという漁法だ。最初の数日間はほとんど無反応に近い状態だが、数日後にはクロの魚影がチラチラ目視できるようになる。またその数日間フナムシを撒くと次第に船の近くにクロが集まるようになる。さらにその数日間、フナムシを撒き続けるとクロがフナムシを奪い合うに口にするようになる。だが、まだこの時点でもクロには一切手を付けをつけることなくフナムシだけ撒いて帰る。フナムシを撒き始めてから約1週間から10日後には船が近づいただけでクロのほうから近づいて来る、この時点ではじめて飼付け漁が成立。ここではじめて竿を出す、約2mほどの竿先にハリスを結び、小粒ウキを付けてタナは矢引きから1ヒロ程度。上にいるクロから釣り込んでいくと警戒することなく際限なく釣れる。ちなみに、他の船が近づくとクロは警戒して湧いてこない。編者さんが言うには、船体や船底の色などをクロは間違いなく記憶しているという、ちょっと耳の痛い人があるのでは?

